

■過去の展示歴－2013年

04/01～04/06 「はじめての文理学部&資料館」

05/27～07/23 「中世文学資料展」

10/01～11/04 「江戸・東京の風景－地理写真を中心として－」

11/18～12/21 「土器と生活－弥生・古墳時代の収蔵品から－」

展示会『はじめての文理学部&資料館』

会 期:平成 25 年 4 月 1 日(月)~4 月 6 日(土)

開館時間:平日 11 時~15 時(土曜 13 時まで)

【展示会の概要】

文理学部には、100 年以上の歴史があり、その間に研究、教育のための資料として、文学、歴史学、考古学、地理学、自然科学に関する資料を収集し、その保管・研究を行ってきました。文理学部資料館は、それら多年にわたって収集されてきた諸資料を教職員、学生及び一般の利用に供することを目的として設立されました。

本展では、展示室の一部を使用し文理学部の歴史と資料館の活動を紹介します。

【主な展示資料】

- ・文理学部第一期生 関係資料
 - ・縄文土器(深鉢形土器 縄文時代中期)
 - ・『徒然草』元文2年(1737)刊
 - ・二神コレクション絵葉書(二神照夫氏寄贈資料)
-

主催:日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

協力:日本大学文理学部図書館

[▲ページトップへ](#)

日本大学文理学部資料館 展示会 「中世文学資料展」

会 期:平成 25 年 5 月 27 日(月)～7 月 23 日(火)

開館時間:平日 10 時～17 時(土曜 13 時まで)

休 館 日:日曜

※ただし、6/1(土)・2(日)、7/20(土)・21(日)は平日の時間で特別開館。

【展示会の概要】

日本大学文理学部資料館展示会「中世文学資料展」では、日本大学所蔵の古典籍資料のうち、中世に成立した文学作品を選び、展示紹介します。

日本大学総合学術情報センター所蔵の古典籍資料の中から、『魔佛一如絵詞』(重要美術品)、『今物語』などの絵巻類や、鎌倉・室町時代に書写された歌書類などを、また日本大学文理学部所蔵の貴重資料の中から、中世文学に関する写本・刊本、絵本類を選びました。それらの古典籍をとおして、個々の作品が編まれた時代の雰囲気を感じとり、書物文化の魅力を知る機会を提供できればと考えています。

『新古今和歌集』『新続古今和歌集』などの勅撰和歌集をはじめ、『平家物語』『曾我物語』などの軍記物語、『文正草子』『小式部』などの御伽草子、あるいは幸若舞『百合若大臣』など、中世に成立した多様なジャンルの表現世界の一端を、さまざまな意匠をこらした和書によってお楽しみいただければ幸いです。(会期中、一部資料の展示替えを行います。)

【主な展示資料】

- ・『魔佛一如絵詞』(室町時代写、重要美術品) * 日本大学総合学術情報センター所蔵
- ・『今物語』(江戸時代写) * 日本大学総合学術情報センター所蔵
- ・『詠歌大概』(永正元年写) * 日本大学文理学部所蔵
- ・『小式部』(江戸時代写) * 日本大学文理学部所蔵

主催: 日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

協力: 日本大学総合学術情報センター・日本大学国文学会・日本大学文理学部図書館

[▲ページトップへ](#)

日本大学文理学部資料館 展示会

「江戸・東京の風景—地理写真を中心として—」

会 期:平成 25 年 10 月 1 日(火)～11 月 4 日(月)

開館時間:平日 10 時～17 時(土曜 13 時まで)

休 館 日:日曜、10/4(金)

※ただし、11/2(土)～4(月)は、大学祭のため 10 時～17 時まで特別開館。

展示会概要:

風景は人びとの生活と密接に結びついており、その風景を写真は、一瞬にして記録することができます。写真技術が日本に伝わっておよそ一世紀半、風景を記録し蓄積されてきた写真は、いまや歴史と文化を考えるためのかけがえのない資料となっています。

地理学では、学術的研究活動や学校教育の場において、写真は文献や地図などとともに、過去の景観・環境などを把握、復元するための基本的なツールとして活用されています。もちろん、写真を適切に読み解くためには、写真の記録する風景がいかなる断片であり、いかなる瞬間であるのか、そしてその断片が被写体のいかなる側面であるのかを見極める必要があります。そこで本展では、風景が広がりをもつこと、風景が時間の流れのなかにあること、そして風景がさまざまな側面をもつことに留意しながら、風景を記録した写真を読み解いていきたいと考えております。

今回の展示では、文理学部と縁の深い江戸・東京に対象地域を絞り、最も古い市街地風景写真の残る 1863(文久 3)年以降について、とくに本学部校友石井實氏の地理写真(国立歴史民俗博物館所蔵「石井實フォトライブラリー」)を中心として展示紹介します。

主催:日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

共催:人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館

[▲ページトップへ](#)

日本大学文理学部資料館 展示会

「土器と生活ー弥生・古墳時代の収蔵品からー」

会 期:平成 25 年 11 月 18 日(月)～12 月 21 日(土)

開館時間:平日 10 時～17 時(土曜 13 時まで)

休 館 日:日曜、11/23(土)

展示概要:

土器には様々な形があります。人々の生活方法が変われば、土器の形も変化し、種類も増えていきます。

様々な説がありますが、今から約 2600 年前から始まったとされる弥生時代は、本格的に農耕を始めることとなります。その農耕を基盤に、食生活が変化したことにより、土器の形が変化し、種類も増えたのです。

このことから、社会の変化に対応して、生活の道具である土器も変化していったことがわかります。

日本大学文理学部にはこれまで刊行物や展示会で紹介されなかった貴重な考古資料が、数多く収蔵されています。本展では、これらの中から、弥生時代と古墳時代の土器をご紹介します。時代ごとの形の変化から、当時の人々の生活の息吹を感じ取って頂ければ幸いです。

主な展示資料:

上仙波遺跡(栃木県)出土品

影向寺裏貝塚(神奈川県)出土品

船橋氏本町遺跡(千葉県)出土品

南中野遺跡(埼玉県)出土品

【ギャラリートーク開催のご案内】

史学科 浜田晋介教授による展示解説を行います。

事前申し込み、参加費は必要ありません。どなたでもお気軽にご参加下さい。

日 時:12 月 6 日(金) 12:30～13:00

場 所:資料館展示室(図書館1階)

主催:日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

▲[ページトップへ](#)